



2024年3月期 決算説明会

株式会社オーバル 代表取締役社長 谷本 淳

2024年6月6日

目次

- ／ 1. 2024年3月期決算概況
- ／ 2. 中期経営計画「Imagination2025」主な取り組み
- ／ 3. トピックス
- ／ 参考資料

1. 2024年3月期 決算概況



2024年3月期実績：増収増益

- 売上の増加と原価率の改善により、営業利益は1,475百万円と前期比33.5%増加
- センサ部門が好業績をけん引し、営業利益・経常利益は過去最高を記録

受注残高：システム部門の大口案件受注等により堅調に積み上げ

- 受注残高は、システム部門の受注積み上げにより、5,632百万円と前期比12.8%増加

2025年3月期予想：当年度比では若干下回る見込み

- 国内の半導体関連業界向けや、中国・韓国の電気自動車用の電池関連業界向けが一服する影響等により、2024年3月期比では若干下回るものの、2023年8月に上方修正した中期経営計画の最終年度の計画値は達成見込み

好調なセンサ部門をはじめ各部門伸長し、売上高は前年度比7.8%増

増収効果に伴う人件費などの固定費比率低下により、営業利益は前年度比33.5%増と過去最高

単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	対前年増減額	対前年増減率
売上高	13,312	14,347	1,035	7.8%
売上原価	8,035	8,395	360	4.5%
売上総利益	5,277	5,952	674	12.8%
販管費	4,172	4,476	303	7.3%
営業利益	1,105	1,475	370	33.5%
営業利益率	8.3%	10.3%	-	-
経常利益	1,228	1,572	344	28.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	649	1,102	452	69.8%

事業部門別受注高・受注残高



センサ部門：国内は半導体関連業界向けが一服したものの、化学業界向けが堅調に推移
受注・売上共に、Anton Paar GmbHライセンス契約の契約一時金の収受が寄与

システム部門：海外は前年度の受注減などの影響色濃く低調に推移も国内の受注好調

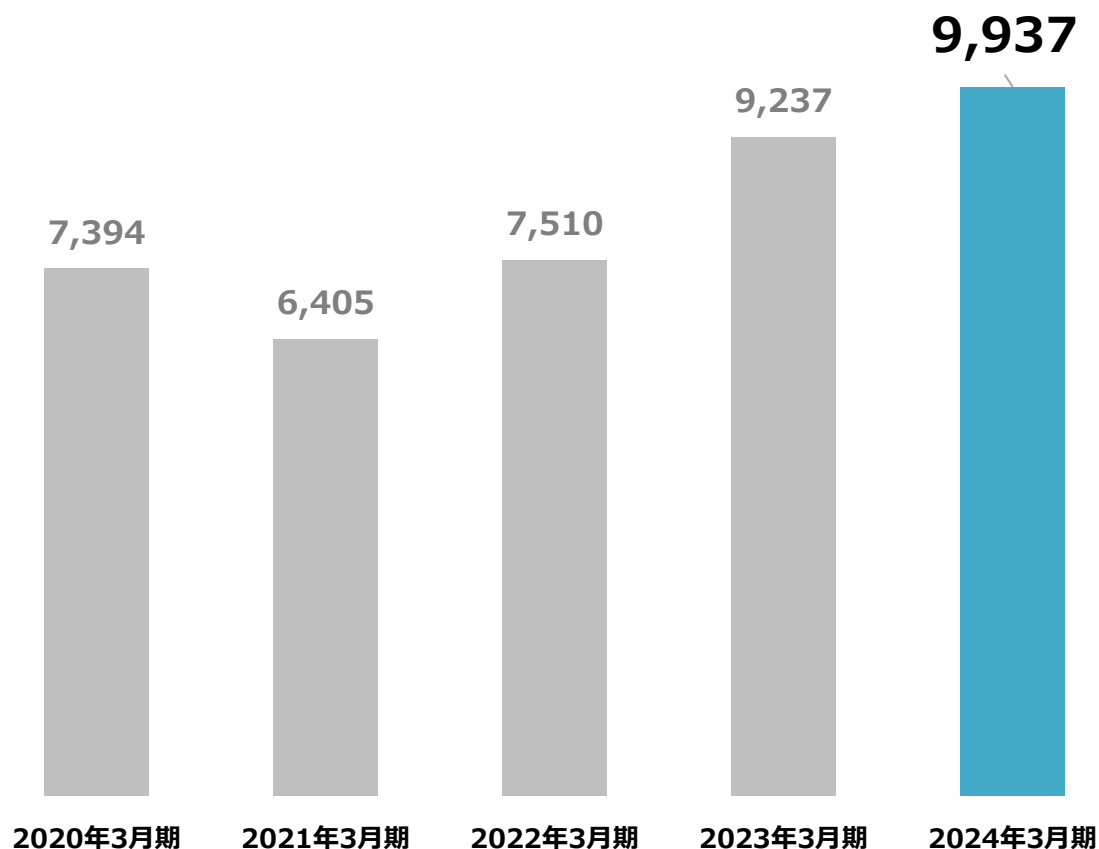
サービス部門：保全サポートサービス、他社製品校正業務受託が増加傾向、京浜計測株式会社を連結

単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	対前年増減額	対前年増減率
受注高	13,828	14,985	1,157	8.4%
センサ部門	9,769	10,305	535	5.5%
システム部門	1,586	1,986	400	25.2%
サービス部門	2,472	2,694	221	8.9%
受注残高	4,994	5,632	637	12.8%
センサ部門	4,045	4,413	367	9.1%
システム部門	853	1,115	261	30.7%
サービス部門	95	103	8	8.5%

単位：百万円

センサ売上推移



国内

- 化学関連業界向けは、素材市場などを中心に堅調に推移
- 半導体関連業界向けは、第3四半期までの受注分を出荷

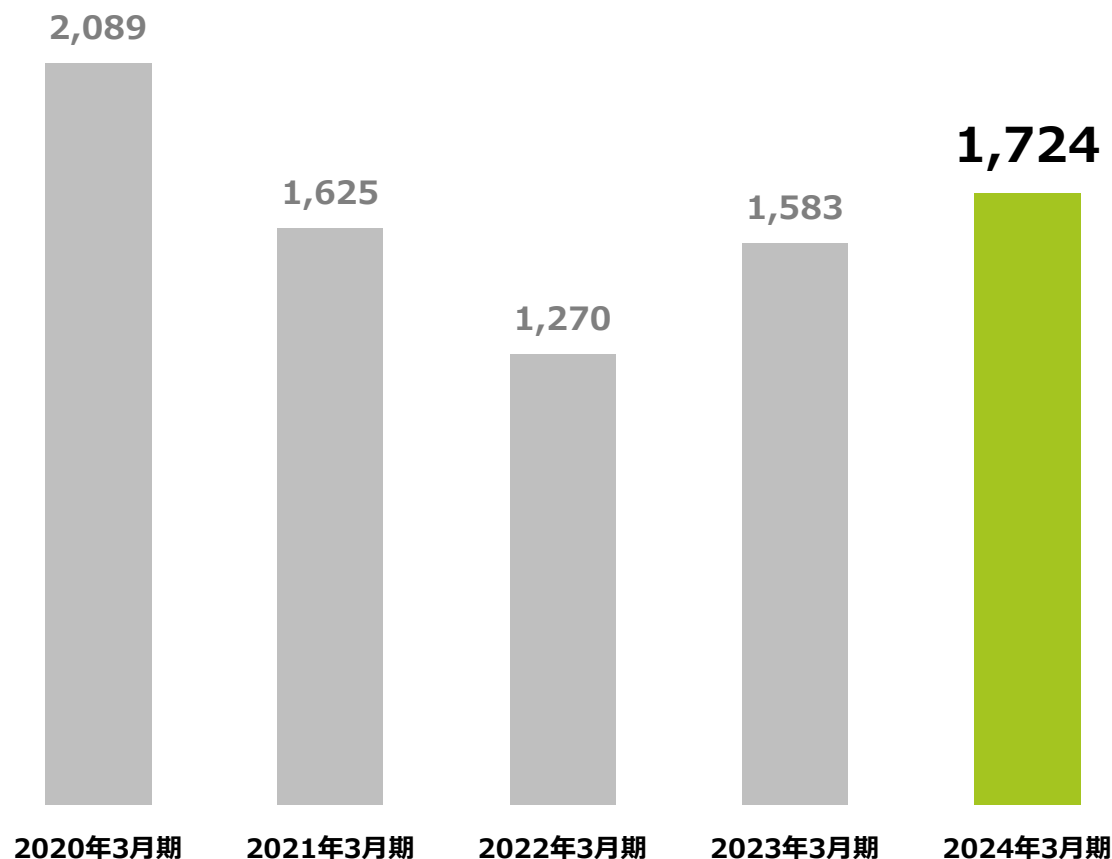
海外

- 中国、韓国の電池関連業界向けが引き続き好調

前期比 **+7.6%**

単位：百万円

システム売上推移



国内

- 国内大口案件の一部売上計上等により前年度より増加

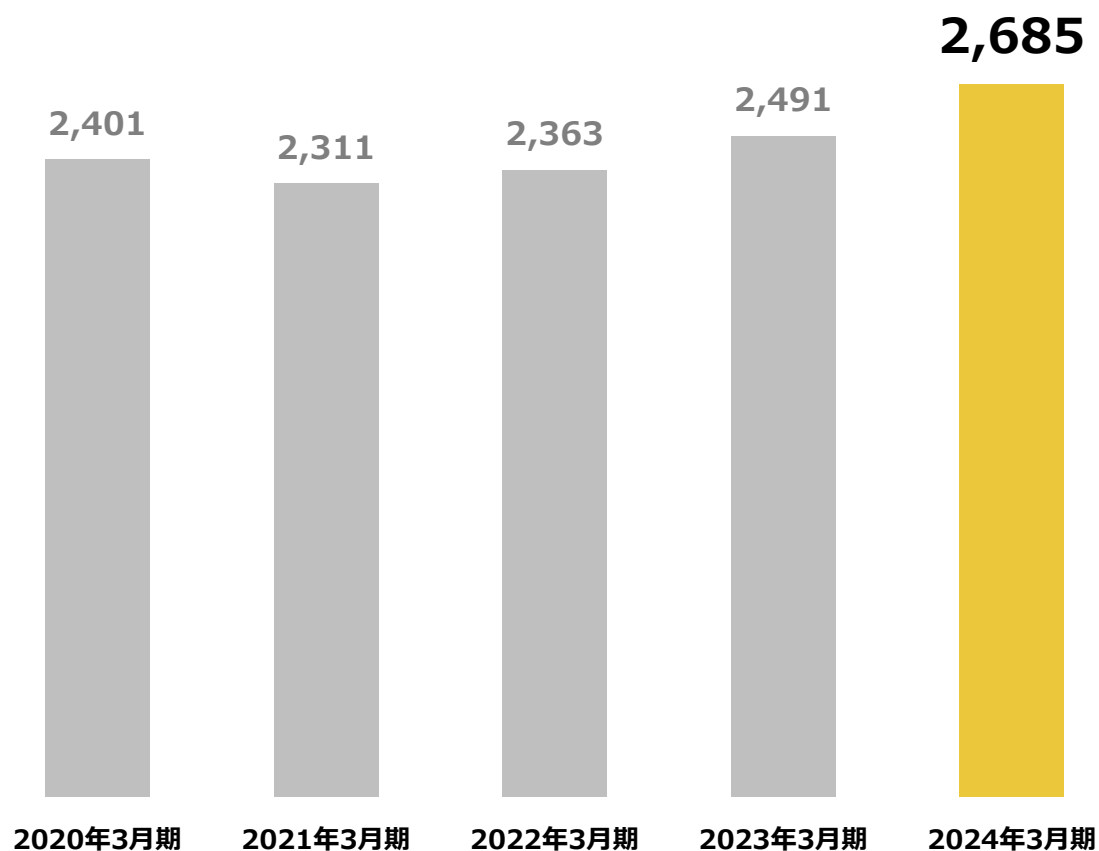
海外

- 前年度の受注減などの影響色濃く低調に推移

前期比 **+8.9%**

単位：百万円

サービス売上推移



国内

- 石油関連の業界再編や、脱炭素社会に向けた動きなど厳しい状況の中、保全計画サポートサービスなど地道できめの細かいメンテナンス活動を継続
- 2023年1月に全株式を取得した京浜計測(株)の売上が寄与

前期比 **+7.8%**

出荷元の国別売上高



単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	構成比	増減率
日本	10,507	11,195	78.0%	+6.5%
海外	2,804	3,152	22.0%	+12.4%
合計	13,312	14,347	100.0%	+7.8%
(海外内訳)				
韓国	1,028	1,035	32.8%	+0.6%
中国	718	840	26.6%	+17.0%
シンガポール	513	700	22.2%	+36.4%
マレーシア	159	231	7.3%	+44.9%
台湾	230	197	6.3%	-14.3%
米国	154	147	4.7%	-4.3%
小計	2,804	3,152	100.0%	+12.4%

主な増減要因

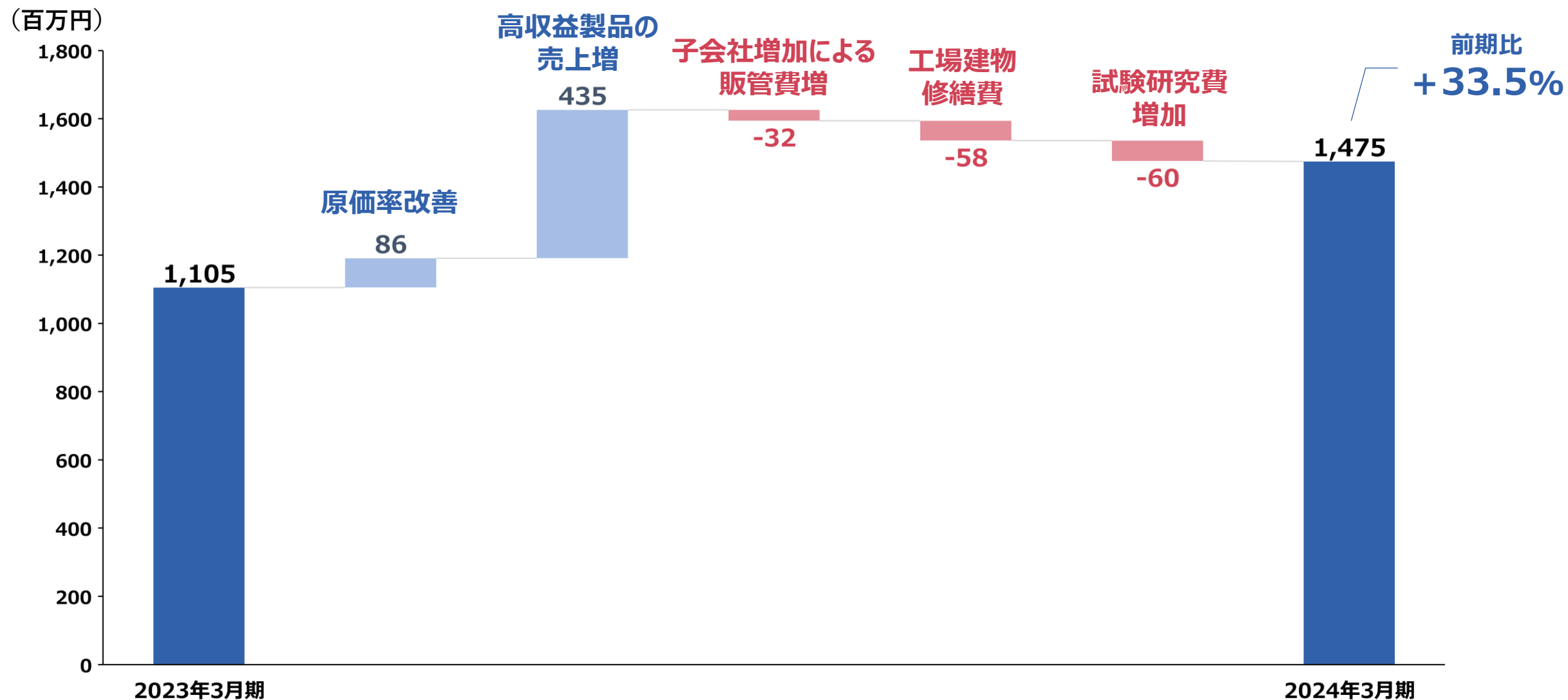
国内

- 化学関連業界向けが素材市場を中心に堅調に推移

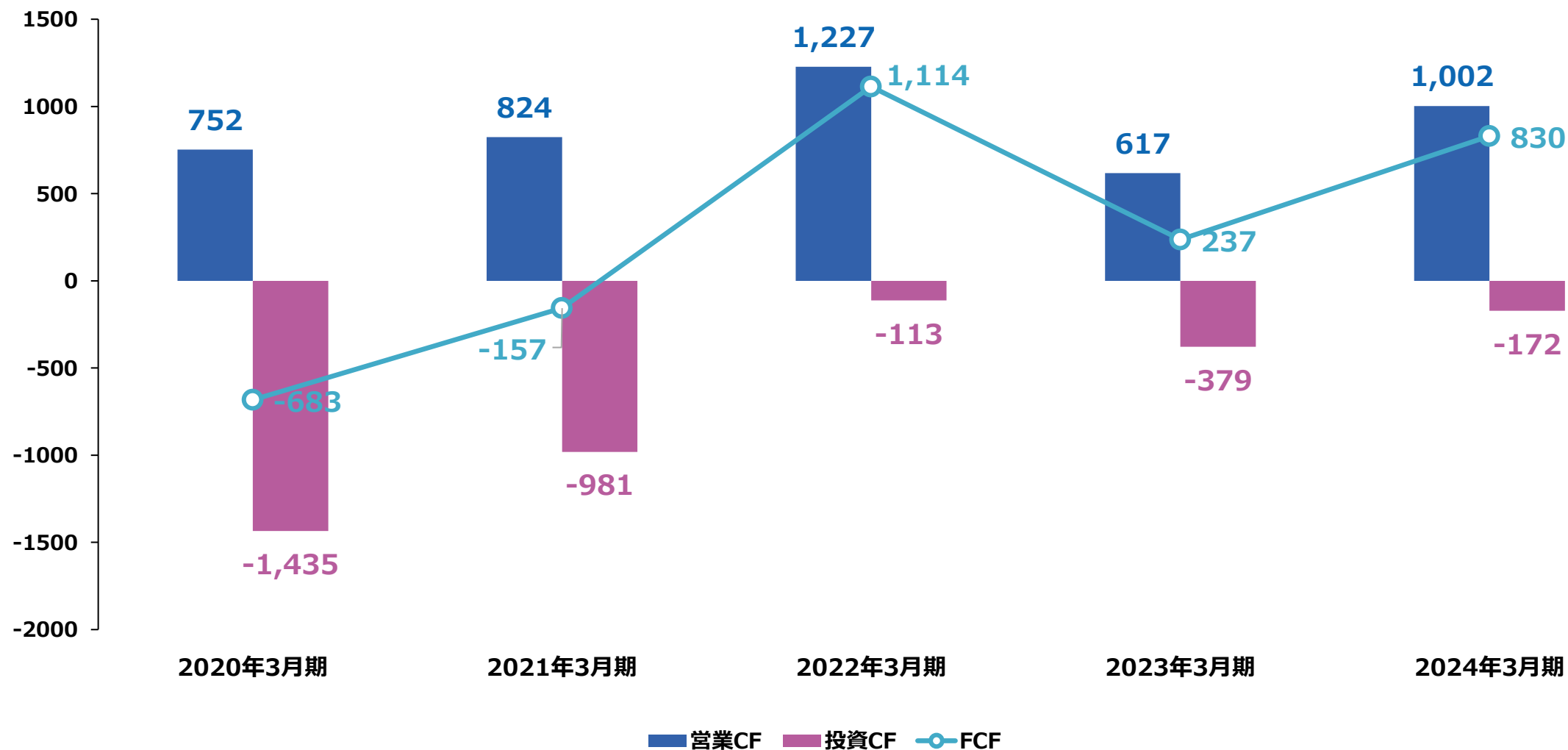
海外

- 中国・韓国の子会社における電池関連業界向けが引き続き好調を維持
- 東南アジア地域におけるコロナ禍の落ち込みが底打ちとなり改善

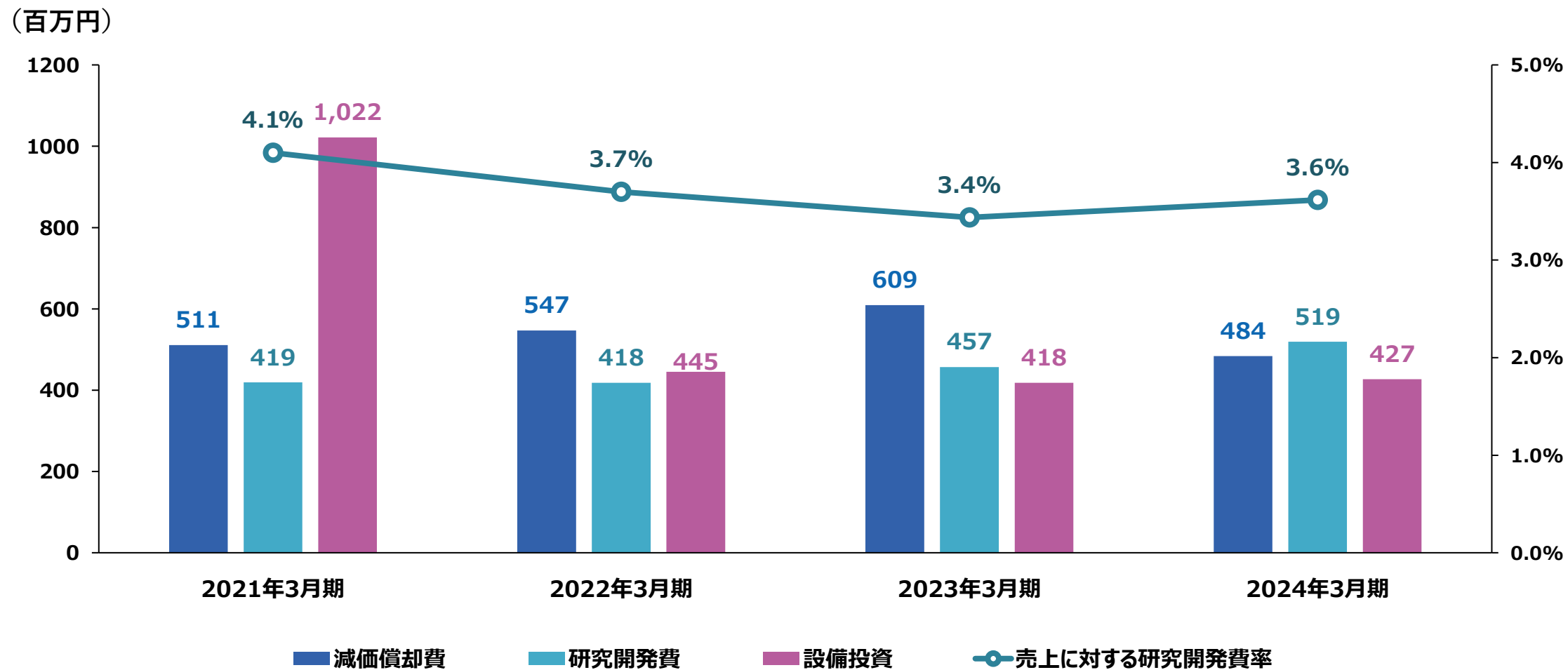
営業利益分析



(百万円)



設備投資：横浜事業所における検査設備更新等



連結貸借対照表



単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	前期末比
流動資産	11,534	12,634	1,099
固定資産	10,830	10,816	-13
資産合計	22,365	23,451	1,085
流動負債	3,993	4,315	322
固定負債	4,089	3,771	-318
負債合計	8,082	8,086	3
純資産	14,282	15,364	1,082
負債・純資産合計	22,365	23,451	1,085

主な増減要因

流動資産

棚卸資産 +652

固定資産

設備取得・償却他 ▲13

流動負債

未払金他 +341

固定負債

長期借入金 ▲206

純資産

利益剰余金 +833

2025年3月期 通期連結業績予想



2024年3月期を若干下回るものの、中期経営計画最終年度計画値は達成見込み

単位：百万円

	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績予想	前期末比	増減率
売上高	14,347	14,000	-347	-2.4%
営業利益	1,475	1,300	-175	-11.9%
経常利益	1,572	1,400	-172	-11.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,102	880	-222	-20.2%
	2024年3月期 予定	2025年3月期 予想	前期末比	増減率
配当	14円	15円	+1円	-

売上収益見通し

前期好調だった国内半導体業界向けや中国・韓国の電気自動車用の電池関連業界向けが一服することにより微減

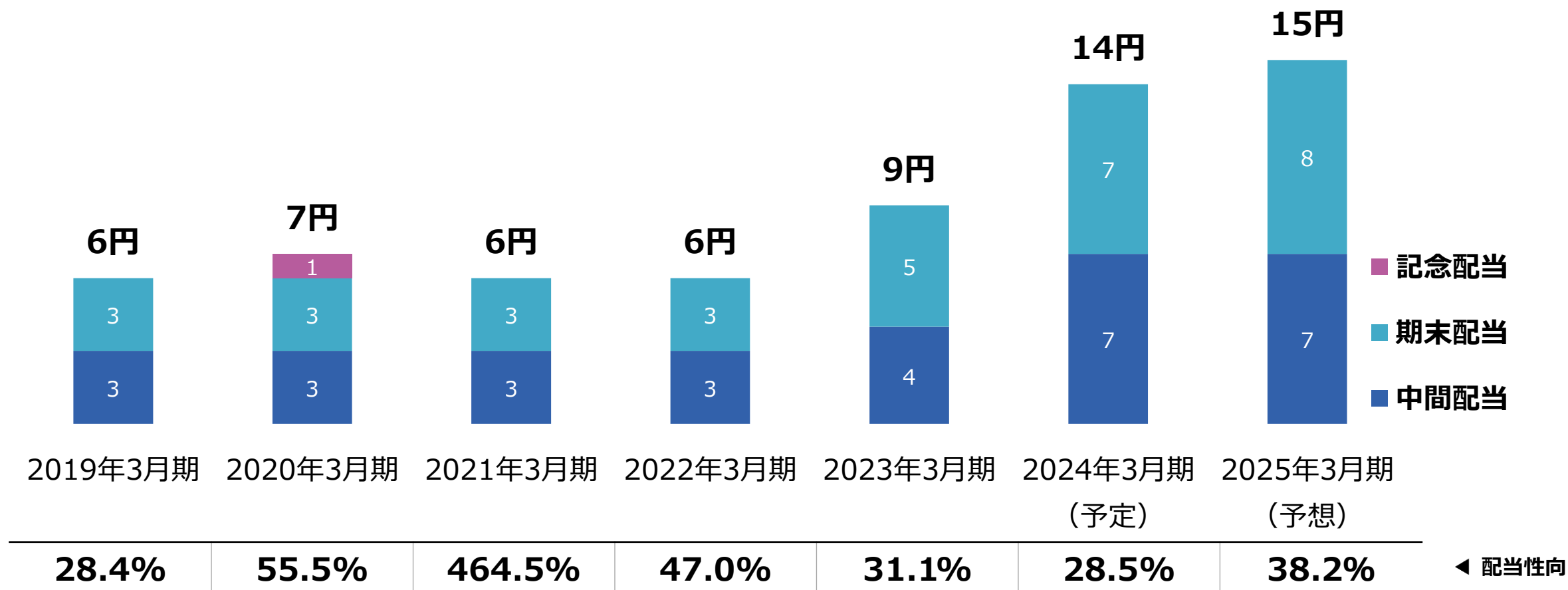
利益見通し

原材料費や人件費の上昇などにより、利益率が低下

配当

中期経営計画の計画値通り、15円を予想

2024年3月期は、前年度から**5円増配**。1株当たり配当金は過去最高の**年間15円**を予定



配当基本方針

最も重視すべき株主の皆様への利益還元であると認識し、会社の経営基盤の確保と将来の事業展開に備えた財務体質の充実を総合的に勘案し決定する

2. 中期経営計画「Imagination2025」主な取り組み



中期経営計画は、以下の経営ビジョンに基づいて取り組んでまいります

VISION

アジアNo.1のセンシング・ソリューション・カンパニーへ



中期経営計画

成長戦略

センサ事業成長戦略

サービス事業成長戦略

システム事業成長戦略

新事業創出戦略

事業環境の変化を的確に捉え、「既存事業の変革」と社会の課題を解決するための「イノベーション」を実現し、企業価値を高める戦略

経営基盤強化戦略

製造BCL戦略

人事財務強化戦略

DX推進戦略

サステナビリティ推進戦略

現在の経営基盤の見直しや改善と、時代の変化に即した新しい組織・運用の導入により、強靱で社会から信頼される経営基盤を構築する戦略



連結業績計画進捗状況

- 2025年3月期（最終年度）の計画値を上方修正（2023年8月）
- すべての項目で、最終年度の計画値を1年前倒しで達成

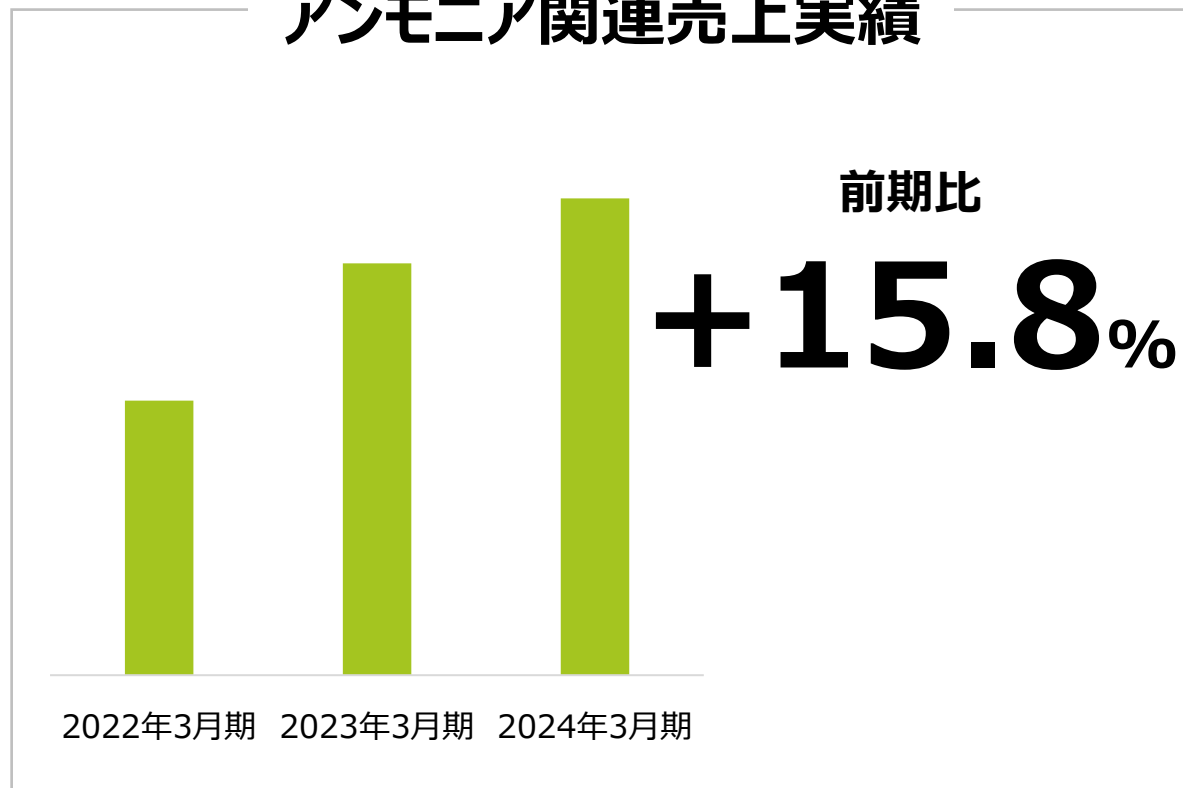
単位：億円

	2024年3月期	2025年3月期		
	(実績)	(当初計画)	(修正)	増減
売上高	143	130	140	+10
経常利益	15.7	7.0	14.0	+7
親会社株主に帰属する 当期純利益	11.0	3.8	8.8	+5
ROE	7.7%	3.0%	5.7%	+2.7%

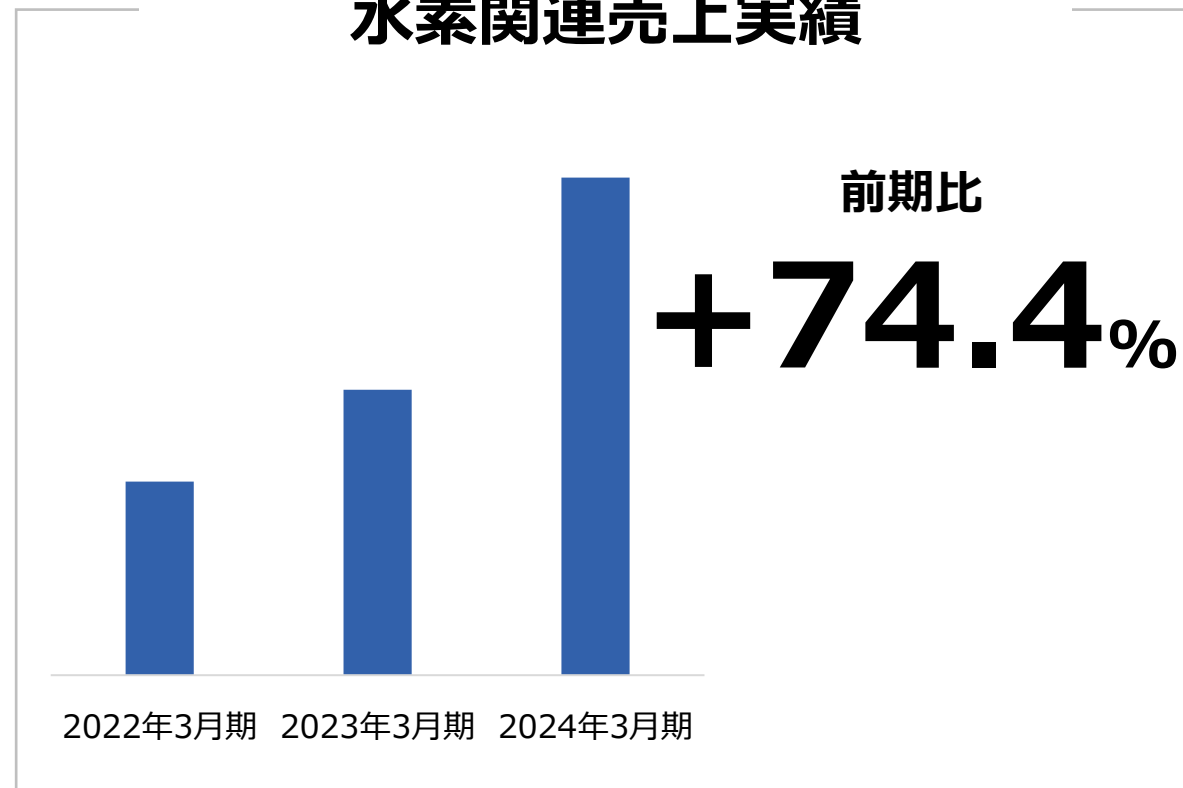
燃料用の水素・アンモニアの供給関連など「脱炭素関連市場」への積極参入

脱炭素化社会・エネルギー安全保障への貢献：水素・アンモニア

アンモニア関連売上実績



水素関連売上実績



水素専用の校正設備「OVAL H2 Labo」（仮称）の建設を計画

脱炭素化社会・エネルギー安全保障への貢献：水素・天然ガス

水素実ガス校正設備

OVAL H₂ Labo

校正能力：0.018 ～ 800 m³/h(normal)
[0.3 ～ 13,333.3 L/min(normal)]

圧 力：Max. 0.98 MPa

標準流量計：臨界ノズル



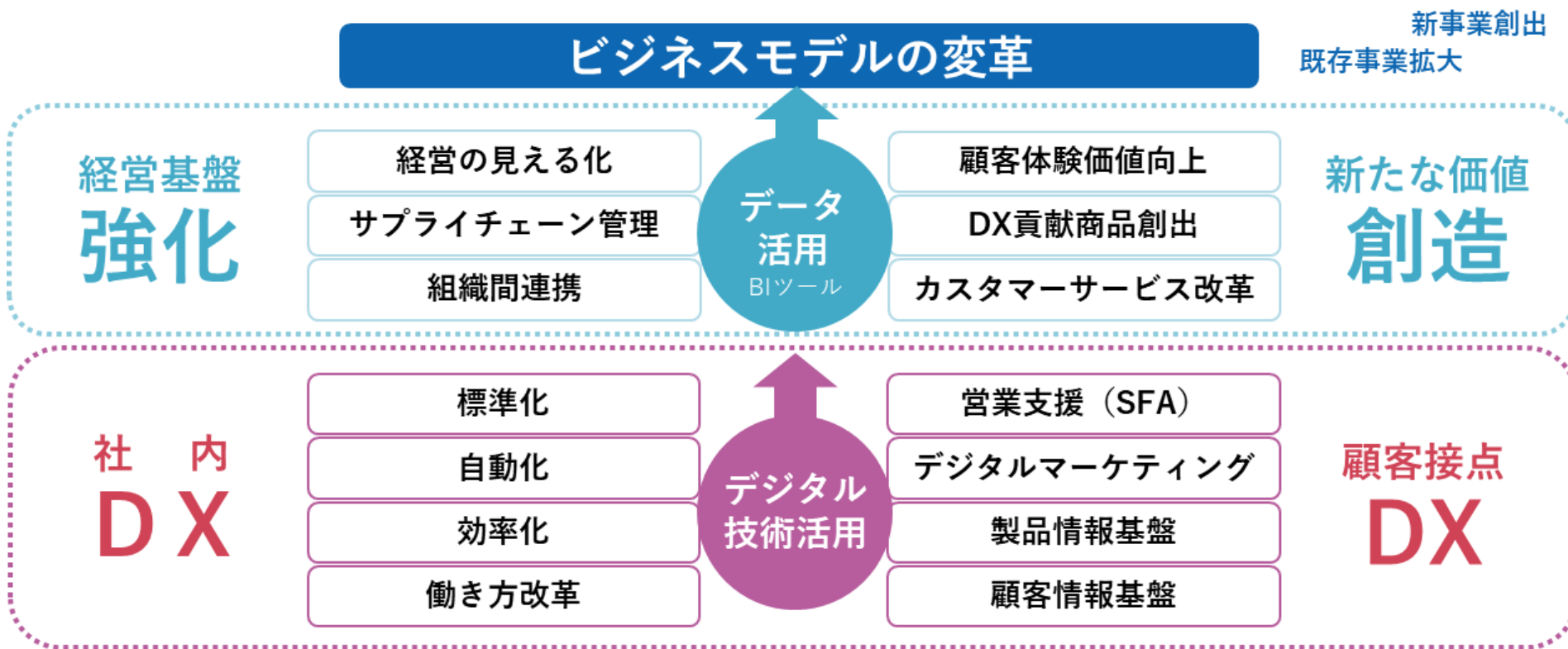
中期経営計画「Imagination2025」DX推進戦略



2023年9月1日に経済産業省よりDX認定制度*の認証を取得

オーバルグループDX推進ビジョン

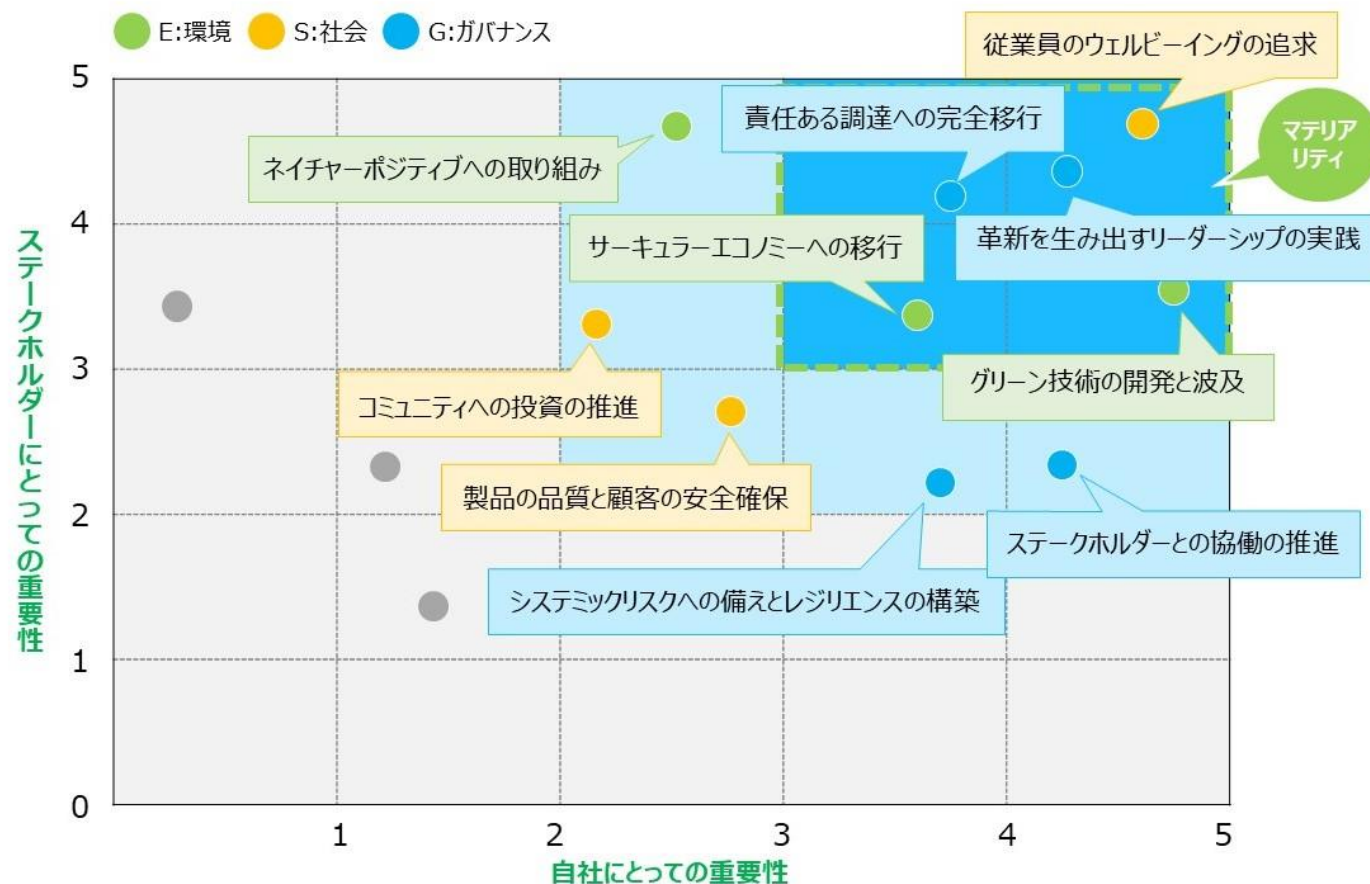
人、情報、モノを“繋いで” 新たな価値を創造する



* DX認定制度とは、デジタル技術による社会変革に対して経営者に求められる事項を取りまとめた「デジタルガバナンス・コード」に対応し、DX推進の準備が整っていると認められた企業を国が認定する制度です。

サステナブル・オーバル～持続できる未来をめざして

Imagination オーバルのマテリアリティを特定



従業員によるワークショップの様子

3. トピックス



ENEOS株式会社堺製油所向け陸上出荷制御システム更新工事の包括契約締結

陸上出荷システムは、ターミナルの中でもガソリンや軽油といった燃料油を正確に計量してタンクローリーに積載する工程で使用されることより、市中への安定供給のための大変重要なシステムです。

今回、ENEOS株式会社堺製油所の陸上出荷システムの各種制御装置の更新に伴い、基本設計から詳細設計、調達、建設工事、納入後の保守までをワンストップで当社が担うこととなりました。

当社がこれまでに培った燃料油の出荷システムの技術や実績が評価され、包括契約締結に至ったと当社は考えています。

設計

調達

建設工事

保守

当社でワンストップ対応



 **ENEOS株式会社** 堺製油所 陸上出荷ターミナル

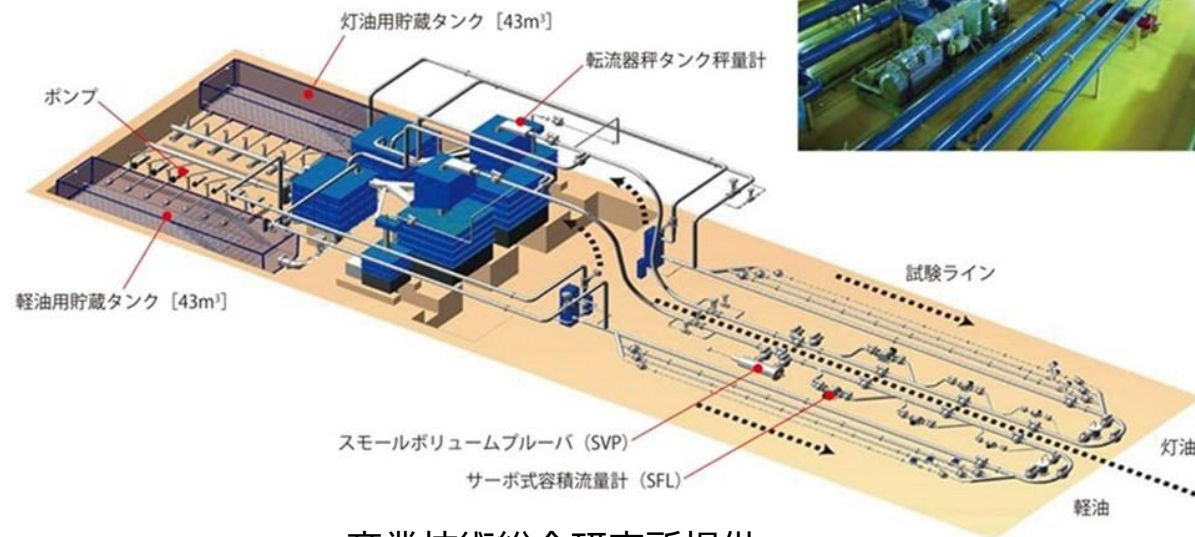
国立研究開発法人産業技術総合研究所向け 世界最高精度 石油流量標準設備 更新・点検整備・改修作業を受注 -トレーサビリティ制度における国家標準設備の校正精度維持-

石油の公正な取引の成立には、正確な流量計測とそれを支える計量標準（国家標準）が必要となります。石油流量標準設備は、世界最高精度(体積流量校正の拡張不確かさ0.030%)を達成した大型かつ超精密な設備で、石油流量の計量トレーサビリティ制度の頂点に位置する国家標準です。

今回の受注により、石油流量標準設備を構成する複数の設備（石油大流量校正設備および石油中流量校正設備）に対して、更新・点検整備・改修を実施します。当社はJCSS（計量法校正事業者登録制度）事業者として、流量の国家標準の適切な維持・管理に今後も当社の技術や知見を活かしてまいります。



当社は、認定基準としてISO/IEC 17025を用い、認定スキームをISO/IEC 17011に従って運営されているJCSSの下で認定されています。
JCSSを運営している認定機関(IA Japan)は、アジア太平洋認定協力機構(APAC)及び国際試験所認定協力機構(ILAC)の相互承認に署名しています。
当社認定事業室は、国際MRA対応JCSS認定事業者です。
JCSS0180は当社認定事業室の認定番号です。



産業技術総合研究所提供

參考資料



会 社 名 株式会社オーバル

創 立 1949年5月10日

資 本 金 22億円（スタンダード市場上場）

連結子会社 11社（国内4社、海外7社）

従業員数 698名



本社
東京都新宿区



創業者
加島 淳

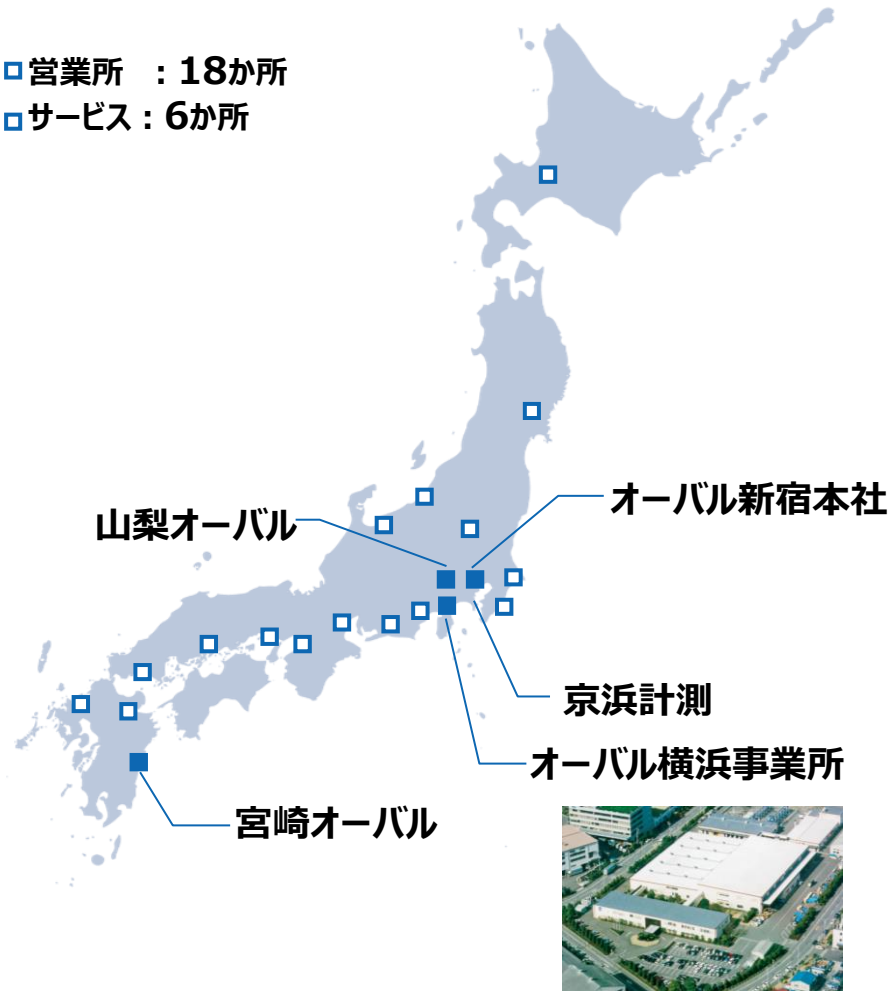
沿革 history

- 1949 オーバル機器工業(株) 創業
- 1961 東京証券取引所市場第二部に上場
- 1992 社名を(株)オーバルに変更
- 2014 東京証券取引所市場第一部に指定替え
- 2019 創立70周年を迎える
- 2022 新中期経営計画「Imagination2025」公表
- 2023 東京証券取引所スタンダード市場を選択



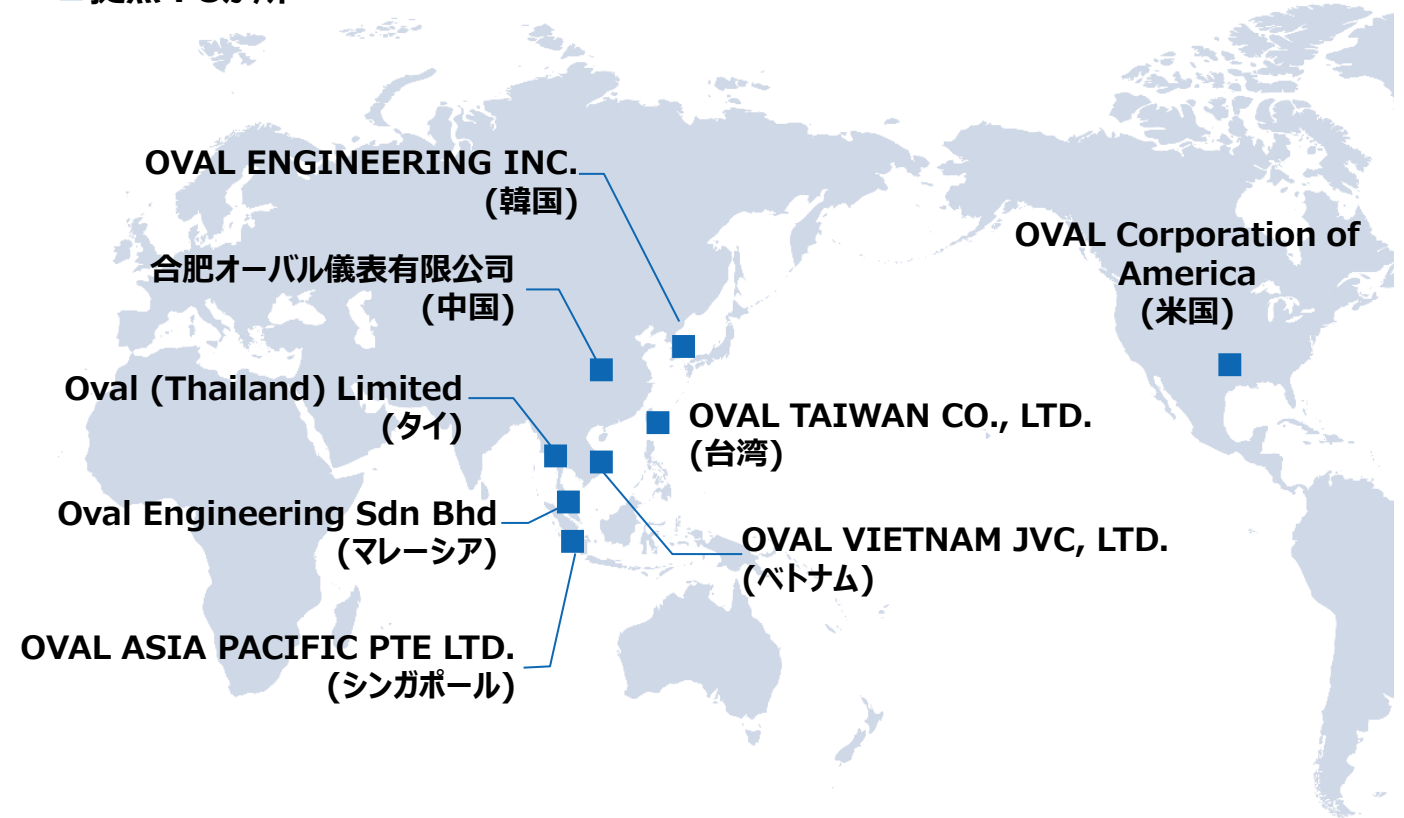
国内

- 営業所 : 18か所
- サービス : 6か所

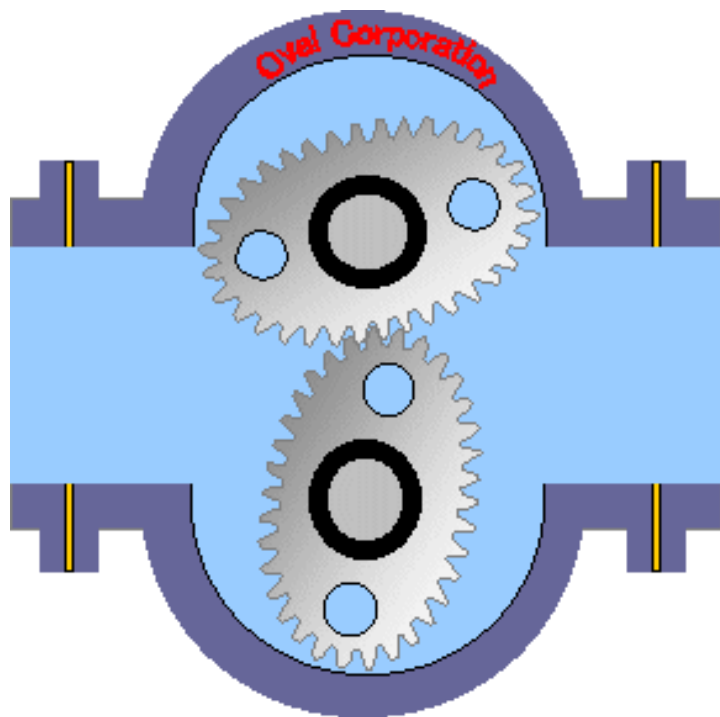


海外

- 拠点 : 8か所



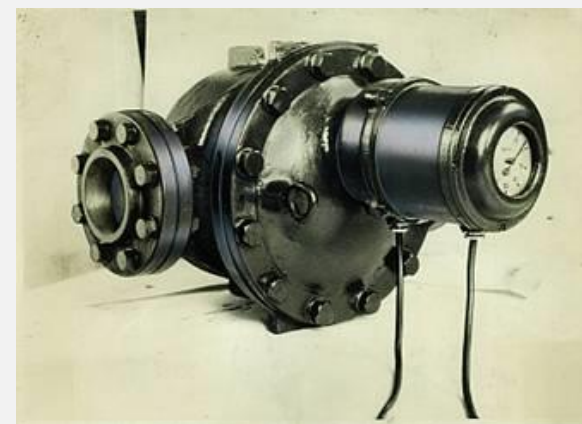
内部 構造



現在のオーバル流量計（ULTRA OVAL TypeS）



初期のオーバル流量計



経営理念

**確かな計測技術で、新たな価値を創造し
豊かな社会の実現に貢献します**

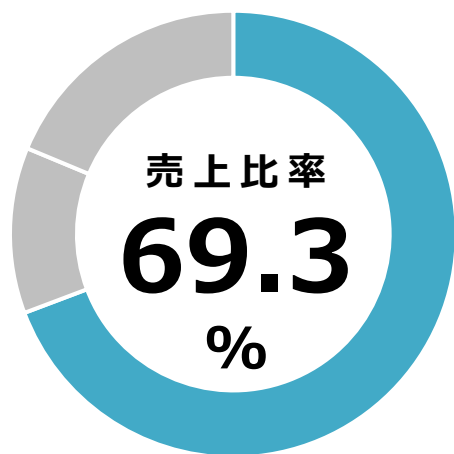
中長期経営ビジョン

**アジアNo.1の
センシング・ソリューション・カンパニーへ**

※アジアNo.1=アジアに本社（資本）が所在する企業のNo.1

2024年3月期

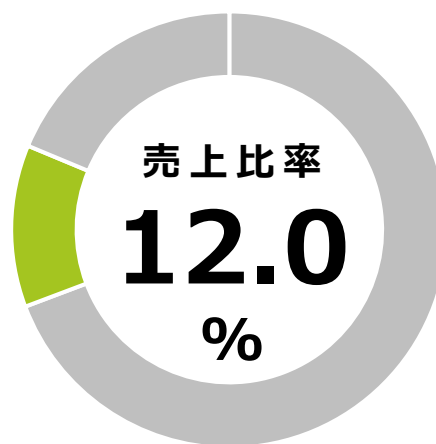
センサ事業



流量計をはじめとする計量計測
機器および関連機器の製造販売



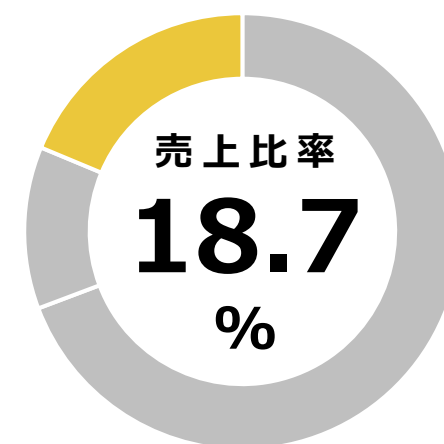
システム事業



流体計測制御に関連する製造、出荷、
検査、分析等のシステム装置の
設計、開発、販売・施工



サービス事業



製品のフィールド対応、修理、
メンテナンスおよび校正事業(JCSS含む)



流れに価値を加えます

容積
流量計



熱式質量
流量計



コリオリ
流量計



タービン
流量計



渦
流量計



電子
計器



超音波
流量計



その他
周辺機器



流体計測制御システム

受入出荷システム



検定システム



サービス・校正

現地での修理・メンテナンス



移動検定車



「校正品質」という付加価値でお客様の課題を解決

JCSS登録事業者で**唯一**3種類の流量で登録

「石油(灯油・ガソリン・重油)」「水」「気体」3種類の流量でJCSS登録

石油の校正可能流量は**国内最大**

※2021年7月 パイププルーバ更新

自社のみならず他社製品の校正サービスも提供



当社は、認定基準としてISO/IEC 17025を用い、認定スキームをISO/IEC 17011に従って運営されているJCSSの下で認定されています。
JCSSを運営している認定機関(IA Japan)は、アジア太平洋認定機構(APAC)及び国際試験所認定協力機構(ILAC)の相互承認に署名しています。
当社認定事業室は、国際MRA対応JCSS認定事業者です。
JCSS0180は当社認定事業室の認定番号です。



水校正設備【JCSS校正】
基準タンク



石油校正設備【JCSS校正】
パイププルーバ



クロスカントリースキーヤー 宮崎日香里選手

PARTNERSHIP

クロスカントリースキーヤーの宮崎選手はオーバルの所属契約選手です。宮崎選手が果敢に挑戦する姿や、目標に向かって努力するひたむきな姿勢に、オーバルの企業姿勢と相通じるもの感じ、頂点をめざし世界に挑戦するアスリートを支え、スポーツの振興にも貢献します。

また、気候変動問題に大きな影響を受けるウィンタースポーツを通して、環境問題を社会的責任と捉え、持続可能な発展に貢献し続けてまいります。



**SPORTS
FOR SDGs**

本資料の取り扱いについて

- 本書には、当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社グループは、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社グループ以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。